

鹿児島県教育委員会賞

おばちゃんにもらったやさしさ

鹿児島大学附属小学校 二年

もちとみ かほ

わたしは、こころの中に大せつにしているたからものをもっていきます。それは、わたしが一年生になって、しばらくたった雨の日のことでした。学校にはでん車でつう学しているので、いもうとをだいたおかあさんと三人で、わき田でんていに、むかいました。かさをさしていもうとをだっこしているおかあさんを見て、おもいだろうな、雨もふついていると、二人のことがしんばいになりました。

「わたしは、もう一年生なんだから、ここまででいいよ。あとは、一人で、でんていまでいけるから。」
と言うと、おかあさんは、

「ほんとうに、大じょうぶ。」
そう言いながら、かさを左手にもちかえて、右手でぬれたわたしのランドセルをハンカチでふいてくれました。そして、

「じゃ、ここからは一人でがんばるのよ。」
と、見おくってくれました。

すこしあるくと、雨がまえよりつよくふってきました。「あとすこし、あとすこし」とおもいながら、がんばりました。でんていではたくさんの方が、でん車をまっています。わたしは、でん車にのれるかなとふあんでいつぱいでした。そのとき、とつぜん、

「すみません、ここに一年生がいるから気をつけてくださいね。」
知らないおばちゃんが、まわりの人たちにおねがいするこえが、きこえてきました。すぐわたしのことだとわかりました。みんながわたしを見ている気がして、すこしはずかしかったけれど、わたしのために言っ

くれたんだなあと、こころがばあつとあかるくなって、とてもうれしくなりました。

それから、そのおばちゃんは、手さげからタオルを出して、ぬれてい

るわたしのランドセルを、おかあさんがしてくれたようにふいてくれました。これは、わたしの入学のおいよいよにおじいちゃんとおばあちゃんがかつてくれた大せつなものです。それを、でんていではじめてあったおばちゃんにもふいてもらったので、うれしくてたまりませんでした。

「ありがとうございます。」
おれいを言うと、おばちゃんはにっこりわらって、すぐきたでん車にの

つていきました。わたしは、おばちゃんがのったでん車をずっと見ていました。
学校についてからも、雨はずつとふっていたけれど、わたしのこころの天気はキラキラの晴れマークでした。おばちゃんありがとう。
二年生になったいまも、でんていのみじかいあいだのできごとが、うかんできます。おもいだすだけで、こころがあなたたかくなって、ふんわりやさしい気もちになります。こんどは、わたしがおばちゃんにもらったやさしさを、だれかにあげたいです。そして、つぎつぎにやさしさがつながっていくといいな。

【審査評】

かほさんの「雨はずつとふっていたけれど、わたしのこころの天気はキラキラの晴れマーク」「こころがあなたたかくなって、ふんわりやさしい気もちになります」という文がいんししょうてきでした。しんせつにされたできごととは、わすれられないものですよ。もらったやさしさがつながっていくように、かほさんができる「しんせつ」にこれからもとりくんでください。

